

vocabulaly, vocabulary, vocaburaly, vocaburary



真野 泰

かわいいような、かわいくないような、ピンクのスポーツバッグに目を引かれた。駅のホームで女子高生が肩にかけていたのである。ピンクのビニールに白い文字で Blass Band と書いてある。しばらく何のことも分からず、おおいに慌てた。これはしたり！ ごく基本的な語とおぼしき blass をわたしは知らんぞ。

それで思い出したのが四半世紀前の話である。司法試験に合格した友人が司法研修所の仲間と草野球のチームを結成、ユニフォームもつくり、胸に Regal なんとかというチーム名も入れた。いよいよ迎えた初試合の日、対戦相手から遠慮がちに指摘されたのだそう。ひょっとして、英語、間違っていないですか？

さらに数年さかのぼって1981年。ぼくは大学で英米法の授業を受けていた。先週の板書の royal は loyal の間違いでした、と教授が訂正する。そして照れくさそうに言い足した。いやあ、カンザスシティ・ロイヤルズが来日してたものですから、つい……。

日本語を母語とする人間にとって L と R は鬼門である。ふたつの音を聞き分けられず、発音すれば両方ともラリルレロとなり、綴ればいつの間にかふたつの文字が入れ替わる。これはかなり一般性の高い現象で、昔も今もあまり変わらない。ふつうの若者はぼろぼろ間違え、英米法の専門家のように英語に慣れ親しんでいる人でさえ、ときに足をすくわれる。

大学の授業の余興として「ボキャブラリー」と受講者全員に英語で書いてもらうことがある。数十本の鉛筆やシャープペンが動いたり動かなかったりしている間をぶらぶら見て歩く面白。さすがに boca とか voka とかで始める学生は少ない。たいていは vocabu くらいまで簡単に書く。しかしそこで手がと

まり、あるいはその先で書いては消しを繰り返す。

学生たちの書く「ボキャブラリー」はじつに個性に富んで多様なので逐一紹介することはできない。そこで最後の「ラリー」にだけ注目し、その箇所でも母音は間違えないものとする、表題に掲げた四種に収める。さて、同じ間違いでも ly で終わる二つは筋が悪い。なぜなら ly で終わる語は圧倒的に副詞が多く、形容詞も相当あるが、名詞はごく僅かなのだから。それくらい分かっていそうなものだが、L と R ですっかり逆上し、気が回らないものと見える。

筋の悪くない間違いは vocaburary である。たとえば honorary や literary, temporary と語尾が似ていて納得する。納得するけれども、間違い。

英語の単語を覚えるときは、文字の並び方をよく観察したうえで、自分の手を動かして何度も書く。そのとき頭の中に音を響かせるというか、それぞれの音を出すときの口の中の形を意識することが大事である。L のときは舌先を上の歯茎にしっかりくっつけ、R のときは舌先をどこにもくっつけない。

L と R の違いを口の中に意識して言葉を覚えれば、たとえ L と R を聞き分けられなくても、それどころかたとえ L と R を本当に正しくは発音できなくても、綴りだけは正しく書ける。こんな話をぼくは今年度の新入生にもするだろう。ついだからね、いいこと教えようか、と懲りずに今年も続けるだろう。ほら、vocabulary の bulary のところね、u と l の間に rg を入れるとね、burglary となるでしょ、これ住居侵入とか押し込み強盗のことね。今年も一人、二人が深く頷き、ほとんどの学生は変な顔をするだろう。

(まの やすし・学習院大学教授)

Genius English Course I,II Revisedスラッシュ・リーディングを使った指導は
こんなふうに

石黒弓美子

◆スラッシュ・リーディングとは何か

スラッシュ・リーディングとは同時通訳の訓練で使われる英語のすみやかな理解と訳出能力を鍛える方法の1つです。従来のように英語の文を最後まで読み終えてから文全体の意味を理解したり訳出したりするのではなく、短い意味の固まりごとに出てきた順に理解を成立させて、文が終わると同時に文全体の意味を把握するという訓練です。英語と日本語は語順がほぼ逆ですが、文を最後まで読み終えてから全体の意味を考えていたのでは、いつまでたっても英語のすみやかな理解は成立せず、同時通訳の現場ではとても仕事をしていけないというところから考え出された手法です。「順送りの理解」とか「頭ごなしの情報処理」とも呼ばれます。最近はその英語の理解力向上に効果があると認識され、一般の学校現場でも使われるようになってきているようです。

◆その方法

方法は単純で、以下のとおりですが、まず、先生が自分で実際にやってみることが重要だと思います。筆者も通訳学校等で教えるときは、事前にまず自分でやってみます。すると、日本語に置き換えにくいところが見えてきます。だいたい生徒も同じところで訳出に苦労します。自分で事前にやってみてこそなぜ難しいのかがわかりますから、生徒の立場に立った、より適切な指導ができます。

1. 英語の文に意味の固まりごとにスラッシュを入れる（文中のスラッシュは1本 [/], 文の終わりには2本 [//]）。
2. 目で文を追いながら、スラッシュを入れた意味のかたまりごとに順に日本語に置き換えていき、文末で文意の理解を完結する。

意味を把握することが目的なので、置き換えた日本語はある程度不自然な日本語でもかまいません。しかし、慣れてきたらだんだんと工夫してできるだけ自然な日本語に置き換えるよう努力するとよいでしょう。通訳訓練では、当然、最終目標を「自然でわかりやすい日本語への訳出」にありますが、通常の英語学習であっても、同じことを目指すならより適切な英語の理解につながるでしょう。

スラッシュの入れ方に厳密なルールはありません。読んでいて目にずっと1つの意味の固まりとして入ってくる単語の連なりごとにスラッシュを入れていけば良いでしょう。

例えば、次の文は下に示すようなスラッシュの入れ方と日本語への置き換えが可能です。

I once traveled through China / with a group / that included a six-month-old baby / called Melanie. //

（私は）かつて中国各地を旅行したことがあります / あるグループと一緒に / その中には6か月の赤ちゃんもいました / その子はメラニーといいました。 //

() は場合によっては訳出が不要な部分です。英語の句の訳出は、日本語では、文にしても句としてもかまいません。ちなみに、この例文を「私はいつかメラニーという6か月の赤ちゃんを含んだグループと一緒に中国を旅行しました」という従来よく見られた訳文と比べてみてください。順送りの理解の置き換えの方が日本語としても自然でわかりやすいことが一目瞭然だと思います。また意味のかたまりごとに理解を成立させるということがどういうことかわかっていただけたでしょう。このように出てきた順に情報の理解を積み重ね、すみやかに文全体の意味をとらえる訓練方法の1つがスラッシュ・リーディングです。

◆指導用 CD-ROM に収録されているスラッシュの入れ方の例と訳例の使い方

まずは以下の手順で先生がやってみます。生徒はスラッシュの入れ方も訳出も、最初はどうしてよいかわからないでしょうが、まずはやってみることが大事です。先生もやってみると、何がわかりにくいのがわかります。よくわからないことがわかることも、その後のコツのつかみ方、また指導方法の発見につながります。最初から手本を見てしまっただけでは、逆にいつまでもコツがつかみにくいのではないかと思います。初めて訪れる場所を尋ねる時、人に案内してもらおうより、自分で地図を見たり人に聞いたりしながらたどり着いた方が、しっかり道順を覚えるのと同じです。

1. まず教科書の本文の部分（教科書に書き込みたくない場合はコピーをとったもの）にスラッシュを入れてみる。
2. スラッシュを入れた部分を、文頭から順に口に出して日本語に置き換えていく。
3. 自分の理解と日本語を、添付のスラッシュ例と訳例と比べてみる。
4. どうしてもスラッシュを入れるコツがつかみにくければ、スラッシュ例を使って日本語

への置き換えをやってみる。

5. 慣れてきたら、自分でスラッシュを入れて、日本語への置き換えをする。最初は不自然な日本語でもよい。正しく意味が取れているかどうかを確認する。
6. さらに慣れてきたら、動詞の訳出を後に残すなど、より日本語らしい置き換えに挑戦してみる。
7. 自分の日本語と訳例とを比べて、どこがどう違うかを考察する。必ずしも訳例がベストとは限らないことを銘記して、自然な日本語への訳出を試みる。

以上のような手順で、今度は生徒にもやらせます。練習を重ねながら、英語の日本語への置き換えはことばそのものの置き換えではなく、意味を置き換えることだという点に気づくことが順送りの訳のコツだと指導します。前出の英文の例で見ると、「a group that included ~」は「~を含むグループ」と訳しては以前と同じ逆順送りであり順送りの理解は成立しません。前から順に「グループの中にいた」と理解することが大切だと気づかせます。include は必ずしも「含む」ではないということを指摘することもできますでしょう。

そして生徒の理解度と意欲のレベルによっては、先生がCDの操作をし、生徒に聞かせながら、スラッシュを入れた部分で一時停止し、生徒は教科書を見ないで、聞いた部分を日本語に置き換えるという練習に挑戦させることもできますでしょう。ポーズ入りの擬似同時通訳の練習になります。さらに途中一時停止をしないで英語を聞きながら日本語にどんどん置き換えていくことができるようになれば、本物の同時通訳です。段階的にこうしたさまざまな練習に挑戦していくことで、英語のスムーズな理解が進み、同時に英語の学習がどんどん楽しくなるのではないかと思います。

(いしぐろ ゆみこ・会議／放送通訳者)

Genius English Course I,II Revised

指導資料・副教材活用法

～ワークブック (Standard) が CD-ROM に～

武田 一



大修館書店の高校英語教科書 *Genius* には、教師用教科書マニュアルの他に、

- 『予習ノート』
- 『ワークブック Standard』
- 『ワークブック Advanced』

という3種類の生徒用副教材が用意されている。今回は、順をおって、各本の特長と使い方をお話していくことにする。

◆『予習ノート』

『予習ノート』では、オーソドックスに、各レッスンの新出単語、重要表現、文法項目がまとめられている。

『予習ノート』は、どこの出版社のものでも似たりよったりだが、*Genius* のものは、地味だがさりげない一言が添えられているのが特長だ。

例えば、新出単語に添えられた反意の表現。さらに新出単語の記憶の定着をはかる手助けとなるであろう接頭辞、接尾辞の解説などがみられる。

2.4	developed countries 「 <u> </u> 」 ⇔ (<u> </u>) 「発展途上国」
0.8	low [ləʊ] ⑧ 「 <u> </u> 」 ⇔ high [haɪ] ⑧ 「 <u> </u> 」
0.10	improper [ɪmˈprɒpər] ⑧ 「 <u> </u> 」 ・im- (in-, ir-, il-も同様) 「反・非・不」の意味を表す接頭辞。

また、文法項目の解説もしっかりと詳しく書かれている。ここまで『予習ノート』で解説されていると、授業での展開がしやすくなるのではないだろうか。

ところで、『予習ノート』だが、どのように使っているだろうか。「予習」という名こそ付けら

p.93	22.1-2	Child labor, <u>which</u> is a serious human rights problem,
p.93		・関係代名詞の非制限的用法。形は“,” (カンマ)＝関係代名詞になる。用法は先行詞 (関係代名詞節が修飾する語句) を付加的に説明して、and, but, because, though の意味を加える。したがって訳では前から訳して、「そして…」などの訳になる。 Cf. Grammar 2
		・関係代名詞には制限的用法と非制限的用法がある。
		(例) 1. They have two daughters, <u>who</u> became teachers.
		2. They have two daughters, <u>who</u> became teachers.
		1 は who ... が先行詞 daughters を限定 (＝修飾) している。したがって「先生になった人」に限って言えば2人の娘がいる。というニュアンスになり、他にも医者や弁護士になった娘がいる可能性があることになる。
		2 方2にはこのような限定の働きはなく、先行詞を付加的に説明しているので、 ＝They have two daughters, <u>and</u> they became teachers.
		と書きかえられ、「彼らには娘が2人いて、彼女たちは先生になった。(他には娘はいない)」という意味になる。

れているが、教科書に出てくるポイントがしっかりと押さえられているのだから、学校の事情によっては、生徒に復習させる教材として使うというアイデアも良さそうだ。

◆『ワークブック Standard』

『ワークブック Standard』は、各レッスン、4つのステップで問題がまとめられ掲載されている。

ステップ1では、新出語句中心、ステップ2では、新出文法事項・表現中心、ステップ3では、その課の内容についての出題、ステップ4では、応用問題。

このような4つのステップにわけて編集され、しかも、1ページごとに1ステップずつというすっきりとしたレイアウトになっている。教科書に載っていることだけをピタッとなぞって作られている予習ノートと違い、教科書から無理なく応用力がつくように編集されている。

具体的に言えば、この『ワークブック Standard』では教科書で出てきた語彙の確認とその

派生語、または反意語まで一つの語から語彙力を膨らませるように問題が選ばれている。また、教科書の英文を使った中間期末予想問題も充実している。

STEP 3

1. 次の英文を読み、下の設問に答えなさい。

Jamie Oliver is not your typical cook. He is treated (a) a media star and has fans all over the world. He has made dinner (b) the Italian Prime Minister, writes best-selling cook-books, and started his own restaurant. Even children watch his cooking program! But what's so special (c) the man [A] (call) the "naked chef"?

① It started one day in 1997. (d) that time Jamie was (work) at the famous River Café in London. He appeared on television (e) part of a documentary about the restaurant. His passion, his easygoing style, and his good looks (make) an impression. Soon he was the star of a cooking program [B] title is *The Naked Chef*. ② It was an overnight success. He was only 21 years old.

1. 下線部①の It の内容を日本語で書きなさい。

2. 下線部②の It の内容を日本語で書きなさい。

3. 空所()に入る前置詞をア～キから選び、記号で答えなさい。すべて小文字にしてあります。【ア about イ as ウ at エ for オ like カ of キ to】

②) _____ ③) _____ ④) _____ ⑤) _____ ⑥) _____

4. 空所 [A], [B] に入る適切な関係代名詞を書きなさい。

[A] _____ [B] _____

5. 本文中の (call), (work), (make) の動詞を文意に合った適切な形にしなさい。

(call) _____ (work) _____ (make) _____

さらに、教科書で取り扱った文法項目を、教科書で出てきた文章以外の文を使って応用力を身に付けさせ、最終的には大学入試問題にまで発展させる工夫に溢れている。

この『ワークブック Standard』は、CD-ROMにも収められ、ますます使いやすさを増し、教科書で習ったことを上手く発展させ、無理なく応用力をつけるのに最適である。

◆『ワークブック Advanced』

『ワークブック Advanced』は、教科書で扱ってきた内容をさらに入試に直結という視点で編集されている。

例えば、教科書で出てきた単語やイディオムの中で、特に受験でもよく出題されるものにスポットライトをあて、実際の入試で出題された語彙、語法、書き換えの問題として紹介している。

文法項目の扱いも同様に、受験に直結した問題を各項目数題用意し掲載している。各問題の解答も、受験に直結した大学入試問題集レベルの解説を添えて展開しているため、生徒の自学自習にも

適している。

また、教科書の各レッスンで扱った英文の内容にマッチした読みやすい長文問題も掲載している。これは、テーマの周辺の状況を把握することで、教科書の内容のさらなる理解がすすむという効果を狙っている。さらに、英語で書かれた文を訳すことで得ることのできた知識の広がり、英語をツールとして知識が増えることへの喜び、知的好奇心をくすぐるということも期待している。

特筆すべきは、『ワークブック Advanced』の解答・解説編では問題解法への解説が実に詳しく、単に関連した内容の問題をピックアップし載せたというレベルをはるかに超えていることである。

巷にこれだけ総合問題集、長文問題集が氾濫しているため、その差をあげにくいのは事実であるが、教科書で1年間やってきたことを、別の問題で、しかも大学入試問題で復習しながら取り組むということに大きな学習効果が期待できるように思う。また、解説が詳しいという観点からも、1年生から2年生への橋渡し教材として、または、長期休暇中の課題にするのも面白いアイディアだと思う。

◆まとめ

高校の英語科教師には、進学率の向上という課せられた大命題がある。そのために、焦って、とかく授業で教科書をないがしろにしてしまう傾向もあるように思う。だが、それはいかがなものだろうか。教科書をいい加減に進めるのではなく、普段の授業で教科書をしっかりと使い、上手に発展させ、無理なく生徒の実力向上を目指すということの方が受験の王道ではないだろうか。その点を考慮して、大修館書店の高校教科書 *Genius* に準拠したこれら3点の予習ノート、ワークブックを有効に使うことを考えてみてはどうだろうか。

(たけだ はじめ・埼玉県武南高等学校教諭)

Captain English Course I,II Revised

歌や映画を通して英語への興味を引き出す



坂本貴之

本校は総合学科ということで ALT が常駐という恵まれた環境にある。しかし、入学時の生徒の学力は「ほとんど学んでいない」状態である。大半の生徒は英語に対して苦手意識を持ち、苦痛のような表情で授業を受けている。

そんな1年生を指導する上で配慮しなくてはならないことは、①いかに英語恐怖症を取り除けるか、②英語が楽しいと感じさせられるか、③多少なりとも自信をつけさせられるかだと考える。中学校の時、「どの辺でつまずいたか」を確認しながら、時間をかけて順序だった学習をさせることが重要である。本稿では、上記の目標を達成するために行った授業実践例と教材の選び方について紹介した。参考にしていただければ幸いである。

◆授業の進め方

英語 I は現在3単位で行っている。内1単位は ALT とのティーム・ティーチングで主に異文化理解に焦点を当て、外国の教育システムや行事について学んだり、簡単な英会話や歌、ゲーム、クイズなどを行っている。生徒全員が授業に参加でき、楽しく笑顔で学べるように ALT と協力してティーチングプランを立てている。

教科書 *Captain I* からは、興味深い教材を適宜選んで、「英語が楽しい」と実感できるようにできるだけアレンジして授業に取り入れている。

◆教科書の選び方

私が教科書を選ぶ上で重要視しているのは実は付録の部分である。特に映画や歌などは異文化や

生き方を学ぶ上で有効であり、生徒が自己を見つめ、生きる目的を考えるいい機会となる。

Captain I を選んだ理由は2つの付録にある。1つは『世界に一つだけの花』の英訳歌詞 (One of a Kind) が載っており、英語バージョンの CD も用意されていること。もう1つは巻末の Reading 教材に『The Best Lesson』が取り上げられていることである。こちらは『Music of the Heart』という実話に基づいた映画を扱っており、「自分を信じることの大切さ」を示した素晴らしい作品で私の大好きな映画の1本である。

◆授業実践例 [1]

Lesson 1 『Not No. 1 but the Only One』

SMAP の『世界に一つだけの花』は生徒全員が歌うことのできる名曲である。

①まずは「これから頑張るぞ!」という気持ちを強く持ってほしい旨を伝え、中学生までの自分をリセットするように助言した。

②次にコラムにある英訳歌詞 (pp. 20~21) を用い、生徒それぞれが自分の言葉に自由に置き換えて、簡単なオリジナルの意識をする作業をさせた。生徒は想像以上に楽しんで取り組んでいた。

③1行ずつ生徒に発表してもらい、素晴らしい意識がたくさん出て本当に驚かされた。生徒の可能性を十分に感じると共に、生徒にとっては少し自信を持てた瞬間だったように思う。

④最後に私と ALT の David 先生の訳例を比較させ、読んだ感想を自由に述べてもらった。私はやや堅い言葉で訳し、David 先生には「今知って

いる日本語で小さな子どもでもわかるようにやさしく訳してほしい」とリクエストした。生徒は当然ながら David 先生の優しい心の込められた、そしてシンプルな訳し方（日本語）に心打たれ、意訳の素晴らしさを実感したようである。カラオケを使って日本語と英語の『世界に一つだけの花』をみんなで合唱し、大変思い出深い授業となった。授業後の David 先生の感想を紹介したい。

I first heard this song as an exchange student in Japan two years ago, but at the time I had no idea what the song was about. Being able to perform the song in class with Sakamoto-sensei and the students was really a great opportunity for me to see the true meaning of the lyrics for the first time. I think it has a very positive message, and I'm very happy we could talk about it in class.

In our modern world, we are often encouraged to compete with others in order to get the best grades, jobs, and opportunities. But sometimes we forget that we are all really the same; we are all human; we all hold an equal value. Each of us has our own characteristics, our own strengths, and our own weaknesses, but we are essentially one people; one human race.

When I read the lyrics of "One of a Kind," it makes me want to encourage my students to grow and bloom into the beautiful flowers that I know they can become one day. I hope we will have more opportunities to have classes like this in the future. David Ashworth (ALT)

◆授業実践例 [2]

Reading 教材『The Best Lesson』

2000年に上映された『Music of the Heart』は実話に基づいた映画である。「ニューヨーク市イースト・ハーレムの小学校にやってきたヴァイオリン教師ロベルタ・ガスパリ。彼女の熱心な指導

に子どもたちは音楽にふれあう喜びを感じ、心を開く。しかし市の教育委員会は音楽科目の予算削減を決定、クラスは存続の危機に立たされる。自分に誇りを持ちかけていた子どもたちのため、ロベルタはある決意をする」という内容である。

① *Captain I* にはとても勉強しやすくできている『学習ノート』がある。映画を鑑賞させる準備段階にこの学習ノートを用いた。冬休みの宿題として pp. 81~91 を自学させた。大半の生徒は内容に興味を示し、きちんと課題をこなしてきた。

② 1 行ずつ生徒に和訳させながら、米国のイースト・ハーレム地区や銃社会の実態について説明。

③ 映画を鑑賞した後、DVD の映像特典「ロベルタ・ガスパリ来日時インタビュー」を見せ、彼女の生き方や音楽に対する思い等を感じてもらった。

④ 最後に映画から何を学んだか、感想文を書かせた。以下は感想文の抜粋である。

- ・今の自分はすぐに諦めたり、逃げてしまうので自分を信じることができない。どうすれば自分を信じられるかを考えるいい機会となった。
- ・だらだら生きている自分が恥ずかしくなった。
- ・これから自分も目標を立てて頑張り、達成感を味わってみたい。
- ・何事も諦めずに頑張ることが大切で、お金のためではなく人のためになりたい。
- ・初めて字幕で映画を観て、夢中になった。

【その他の推薦映画（実話編）】

- ・遠い空の向こうに ・コーチ・カーター
- ・レッスン！ ・オールド・ルーキー
- ・タイタンズを忘れない ・ルディ

* * *

我々の仕事は「いかに英語に興味を持たせるか」に尽きると思う。これからも英語を通して「楽しく生きること、諦めずに頑張ること」を教えるために工夫を凝らした授業を行っていきいたいと思う。

* この実践例は前任校千葉県立八街^{やちまた}高等学校校でのものです。

（さかもと たかゆき・千葉県立検見川高等学校教諭）

Captain English Course I,II Revised

指導資料・副教材を駆使した授業



村越亮治

私の勤務校では、ここ数年、生徒の家庭学習時間の少なさが問題になっています。「英語を話したりするのは好きだけど、家ではテスト前くらいしか英語の勉強はしない」「英語の予習はしないし、ノートも作らず、授業で先生が言ったことを教科書に書き込んで終わり」という生徒を多くお持ちの先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ここでは、そのような生徒を前にした時の、英語の授業活動や家庭学習のさせ方について、*Captain English Course I Revised* の教科書と指導資料・副教材を材料にして考えてみたいと思います。

◆予習を前提としない授業

「語句を前もって調べてきなさい」と言っても生徒がなかなかやってこないなら、思い切ってその場で一緒にやっつけてしまいましょう。『指導用 CD-ROM』中の「フラッシュカード」を使って、新出語句・既習語句の意味を知っているかどうかを確認しながら発音練習をさせ、『学習ノート』の「単語・熟語・重要表現」の欄に書き込ませます。知っていたら思い切りほめてあげたり、グループを作って競わせたりしながら、導入の活動として授業を盛り上げることになればいいのです。最近では、生徒がなかなかノートをとらないことや、授業時間を効率的に活用するために、自作のハンドアウトに基づいた授業をされている先生方が多いと思います。しかしながら、ハンドアウト作りにはかなりの労力と時間が必要です。『学習ノート』があれば、前述の語句とあわせて、「Function」や、読解のための「Ques-

tions」の解答もその場でやって書いて残しておけます。早く課題が終わった生徒には「このクイズに Challenge!」に取り組みさせて時間調整ができます。これも、せっかくさせるのですから、次の授業の冒頭で確認・発音練習をして語彙定着のチャンスにしましょう。

また、スラッシュ入りの本文は、さまざまな音読活動に使えます。コーラス・リーディングやバズ・リーディングの他、シャドーイングやリード・アンド・ルックアップ、ペアワークの音読など、手を変え、品を変えながら飽きさせない音読活動をさせることが必要です。その際にも、スラッシュで区切られた意味のまとまりを意識させなければなりません。『学習ノート』を使わずに、やはり自作のハンドアウトで、という場合には、『指導用 CD-ROM』中のさまざまな電子データが利用できます。いずれの場合にせよ、予習をしてこない状況を嘆くのではなく、逆に「初見の新鮮さ」を活かした授業活動を考えたいものです。

◆言語知識から言語使用へ

テキストに出てくる文法事項を学習したら、『学習ノート』の「文法チェック」などを使った定着のための練習が不可欠です。私の勤務校でも、生徒たちにライティングやスピーキングの活動をさせると、中学校 1 年生レベルの基本的な文法事項も使えるようになっていないことがよくあります。習ったことは、練習問題でくり返し練習させるとともに、会話練習やタスク活動などの中で使わせながら、さらにしっかり定着させた

いものです。『言語活動集』には、各レッスンに出てくる文法事項に焦点を当てた「基礎編」「発展編」のタスク活動が収録されています。冊子のものでそのままコピーしてワークシートにできますが、時間の関係でもう少し軽めにしたい、もう少し簡単な語句で活動させたい、などカスタマイズにしたい場合は、『指導用 CD-ROM』の中の電子データ版が利用できるでしょう。この『言語活動集』の活動は、現実の言語使用場面にできるだけ則したものになっています。これらの言語活動は、授業時間が余ったときのお楽しみ企画として実施してもよいと思いますが、言語知識習得のための活動として授業の流れの中に位置づけられれば、よりメリハリのある展開になるのではないかと思います。

◆語句・文法事項の復習は授業で

生徒がみな日々の家庭学習で語句や文法事項をしっかり復習してくれる、とは限りません。テスト1週間前以外は（へたをするとさらに直前まで？）ほぼ毎日部活、などという生活を送っている生徒も少なくないでしょう。そのような状況の中で、課題を配って、「家でやってきなさい」がどれくらい報われるかは、はなはだ疑問です。そこで、語句や文法事項については習ったらすぐ授業の中で復習、というのはどうでしょう。授業の終わり、または次の授業の冒頭で、教科書その他何も見ないで『単語・文法練習シート』をさせてみれば、どの語句が記憶にとどまっているのか、理解できていない文法事項はどれか、を生徒自身にモニターさせながら、復習させることができます。『単語・文法練習シート』はレッスンごとに「基礎」「発展」とまとまっているので、パートごとなど、もう少し細かく分けて実施したい場合やかけられる時間が短い場合には、『指導用 CD-ROM』の電子データを利用するとよいでしょう。

◆家庭学習課題の明確化

さて、冒頭で述べた、「家庭学習時間の少なさ」を解決するにはどうしたらよいのでしょうか。明らかな答えがわかればとっくにやっているのですが、基本的に生徒は、「お徳感」がなければ、家庭学習や宿題はやらないと思います。「提出・未提出は成績に入るぞ」などと脅したところでうまく行かない場合もあります。出すだけでいいなら、誰かのを写して提出する生徒も出てくるでしょう。そこで、『評価問題集』を家庭学習課題にし、必ずそこから同一問題、類似問題を定期テストに出題するようにすれば、やる気になるかもしれません。これも、問題を加工する場合は、CD-ROMの電子データが利用できます。

◆おわりに——「教科書で教える」再考

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」——教師なら何度も耳にしてきたフレーズだと思います。あらためて、「教科書で教える」とはどういうことでしょうか。私自身の授業では、教科書本文のトピックについて、まず生徒の身近なところから話題を振りながら、関連語句や言語形式をインプットします。つまりスキーマを活性化させてから教科書に臨みます。その渡りのしかけを作るのが大変ですが、楽しみでもあります。読後には読んだことを踏まえて、自分自身のことについて、短くてもよいので、書かせたり話させたりします。つまり「自分たちの世界」→「教科書の世界」→「自分たちの世界」という流れです。「教科書で教える」とは「教科書を材料にして、自分自身で考えさせたり表現させたりすること、またそのために必要な言語知識を習得させる」ことではないでしょうか。そのような授業を展開するためには、指導資料・副教材などを活用しながら、より立体的な授業プランを持ち、より着実な学びを促す工夫をしたいものです。

*この実践例は前任校神奈川県立大和西高等学校でのものです。

（むらこし りょうじ・神奈川県立外語短期大学講師）

Departure OC I Revised Edition

Happy Teachers Make Happy Students

Yvette Flower



Recently, I spoke with a British friend about his experiences as an ALT. As well as the many rewards of the job, we also discussed some of the pitfalls. He explained how hard it can be finding time to liaise with JTEs and I must confess his comment: “Time is the biggest frustration.” stuck with me.

It would appear that lack of time to prepare for team-teaching lessons can be a very big source of frustration for ALTs in Japan and an understandable one at that. Teachers who are serious about their work do not want to walk into a lesson “cold.” Obviously, a teacher cannot play a truly active role in the classroom unless he or she understands *everything* in the students’ textbooks and hence the activities the class will engage in. However, considering that Oral Communication textbooks almost always give instructions, comprehension questions and the like in Japanese, it is virtually impossible for an ALT to prepare a lesson by him or herself unless he or she can read Japanese. Those of us who have been down that road know reading Japanese is a very different kettle of fish to speaking it!

It is my firm belief that *Departure Teacher’s Book* will go a long way towards ameliorating this less than ideal situation for both ALTs and JTEs.

Perhaps the single most useful feature of the *Teacher’s Book* is the fact that everything is presented in English on the relevant page. Answers are given in red, instructions in green and CD listening scripts in black, eliminating the need to flip to another page to check scripts or find answers. As the *Teacher’s Book* is in English, the ALT can read the targets for each lesson by him or herself and understanding the aims of the lesson will surely lead to more effective teaching. In addition, all the instructions have been translated into English so the ALT can monitor students more efficiently. If some of the instructions are to be given to the class in English, the ALT can decide how to rephrase them in advance, if necessary. With *Departure Teacher’s Book*, an ALT will be able to prepare efficiently for the lesson by himself or herself and perhaps even use the *Teacher’s Book* and student’s textbook to learn Japanese. Furthermore, meetings to plan lessons should be both smoother and shorter based on the *Teacher’s Book*. If any changes or additions are to be made to the lesson, they can be done quickly and easily.

Another novel feature of the *Teacher’s Book* is that it is identical to the student’s textbook in size and color. The illustra-

tions are full size and in full color, making it easy to engage students with questions about the color of illustrations and photos. Using the same textbook will help to create a sense of unity between teachers and students, emphasizing that everyone in the classroom is working towards the same goal.

The *Teacher's Book* will also be of help to Japanese English teachers, in view of the Ministry of Education and Science's new directives regarding the teaching of English classes in English. I know that one of my Japanese colleagues regularly consults *Departure Teacher's Book* for hints about how to give instructions in English.

Finally, another aspect of *Departure* that I like very much is the characters that appear throughout it. The main one is Suzuki Kazuaki, a Japanese high school student. The first eight lessons deal with school life in Japan, as Kazuaki befriends Chris, an exchange student from the USA. In the second half of *Departure* Kazuaki goes to Chicago as an exchange student. He meets his host family, the Wilsons, and makes a new American friend, John. The last unit brings us back to Japan, where Chris is involved in school activities and preparing to return home. The Japanese students are finishing their first year in high school. It's the perfect time to talk about memories.

In reality, these are the times that most Japanese high school students will use English — talking with exchange students or ALTs at school. Some students, of course, may have the opportunity to go overseas on a homestay themselves or have an

教科書 p.42

Lesson 8 This Is Chris Speaking.

Have you ever made a phone call in English? We use telephones every day, but when it comes to talking in English, we may feel nervous. Let's learn some basic expressions that are often used on the phone.

Get Ready

Listen to telephone conversations (1) - (5) and select the correct situation from pictures a - e to match each conversation.

(1) a. _____
(2) b. _____
(3) a. _____
(4) d. _____
(5) c. _____

Get Ready Script

(1) A: Is the 20th of this month OK for you?
B: I'm afraid not. We have another meeting then, but the next day is fine.
(2) A: Hello. This is Shibata Electric. May I help you? B: My name is Sano. I live on 5th Street. Our washing machine doesn't work well. Would you come and look at it, please?
(3) A: Where are you now? B: In front of the station.
(4) A: May I speak to Dr. Adam Thompson? B: I'm afraid you have the wrong number.
(5) A: Hi, Kyoko, what's up? B: Will you help me with my math homework? I can't solve some of the problems.

▲ *Departure OC I Teacher's Book*

exchange student to stay in their home. The way *Departure* introduces English using these realistic situations is bound to resonate with students.

"Job," "occupation," "career," "vocation," whatever we may choose to call it, work is a very important part of life for most people; how we feel about it can affect our mental and even physical health. Perhaps the French memoir writer Françoise de Motteville was right when she wrote: "The true way to render ourselves happy is to love our work and find in it our pleasure." All in all, I believe that *Departure*, and the *Teacher's Book* in particular, are invaluable aids with the potential to help a lot of English teachers find even more pleasure in their work.

(イヴェット フラワー・茗溪学園中学・高等学校教諭)

Departure OC I Revised Edition

CALL 教材化で生徒の力を引き出す

山崎 等



札幌清田高校ではCALL (computer-assisted language learning) システムを用いてOC I (2単位) の授業を行っています。1年生のクラスを2分割したうち的一方(20名)はCALL教室で日本人教員による *Departure Oral Communication I* を用いた授業を受け、残りの20名はHR教室で日本人教員とALTのティームティーチングによる communication lesson を交互に受けます。OC I の授業では指示、説明はできるだけ英語で行っています。*Departure* を使用するCALL教室での授業の特徴は、教材提示装置で取り込んだ画像をセンターモニターに映しながらCDプレーヤーの音を聞かせてListening ComprehensionやTask活動を行わせる等、視覚、聴覚両面で英語を学ぶことです。

教科書を学んだ後、DialogやPronunciationのコーナーを基にして、以下のような自主教材を作成して生徒が各自のペースで音声学習をできるようにしています。

◆ *Departure* の活用例 (CALL)

CALLでは、各生徒が図1のような画面を見ながら学習します。生徒はこの画面を見ながらボックスの中身を聴き取り、キーボードで答えを入力します。そして1～10まで解答し、解答sendをタッチすると次のページになり○×と正解が示されます。何度でも聞き返せます。(図1の「解答Send」マークのすぐ上の(10)は配点が10点であることを表す。)

不得意な生徒は何度でもプレイボタンを押して

Lesson 10 Dialog

適語を入れなさい。

L: I sometimes see Japanese students smile when they can't 1 _____ in class. I think that's very 2 _____.

K: Oh, I see. Well, 3 _____ would you feel if the door of the train 4 _____ just before you got on it?

L: Uh... I would be very 5 _____.

K: I would be, too, but I would probably smile.

L: Why? Do you think your 6 _____ is funny?

K: No, 7 _____. We often smile in 8 _____ to 9 _____ our embarrassment.

L: You smile if you miss the train. That's really interesting. What would you do if you caught it?

K: Of course, I'd smile 10 _____!

1.(10) 2.(10) 3.(10) 4.(10) 5.(10) 6.(10) 7.(10) 8.(10) 9.(10) 10.(10)

解答 Send

図1 CALL画面

繰り返し学習が可能です。生徒の反応も良好です。理由としては一斉授業と違ってわからない箇所は繰り返し聞け、自分にとって簡単な箇所は一回で通過できるため自分のペースで理解できるからだと思われます。

◆ *Departure Lesson1*を基本にした練習プリント

発音練習プリント(図2)ではまずStep 1で発音の説明と実演、Step 2でゲーム的に教員がそれぞれの山の発音を連続で発音し何番に行き着くかの聞き取りに生徒が挑戦します(例えば bad-land-man-sad-1 となるわけです)。

Step 3では教員がTomかSallyを選んでket-tleかcattleを見ている、またはpenかpanを欲しがっているという文を読みます(例えばWho wants a pen? に対しTom wants a pen. Sally wants a pan. と発音されると答えはTom)。

このプリントは *Departure* の Lesson 1 を学習

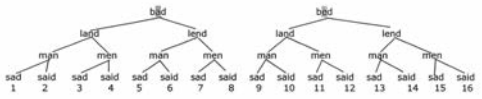
OCI Pronunciation Lesson 1: /æ/ e /

Step 1: Use your mouth!

/æ/   /e/  

/æ/ and /e/ = /ε/

Step 2: listening game



Step 3: Practice makes perfect

Tom		
Sally		

Ask the questions: Who is watching the kettle/cattle?
Who wants a pen/pan?

図2 Pronunciation プリント

した後、応用、定着を図るための練習プリントです。このような補助プリントを随時作成し、教科書の練習を行っています。

◆ *Departure* に関連した HR の Activity 例

例えばある日の HR での Communication Activity では、How often do you ...? のパターンを使ってクラスのできるだけ多くの友人に話しかけ、always ~ never の分布をつけ、その結果を発表するというシンプルな活動を行いました。この activity だと生徒は必然的に歩き回り、対話練習を多く行うことになります。ALT の先生も混じって全員がとても活発に動き回ります。

CALL で *Departure* を使って基本表現を練習し、それを教室での Communication Lesson の中で活用します。2つの活動が連動するわけです。

本校の OCI の1年間の大きな流れとして、20

名ずつのグループ A, B で活動する期間と、40名で以下のプロジェクト活動①～④をする期間に分かれています。プロジェクトの期間は40名全員が CALL に入り JTE 2人と ALT の指導を受けます。具体的には次のようになっています。

- ① Show & Tell (英語による自己紹介)
- ② Country Project (各生徒が一国を選んで英語で紹介する)
- ③ Japan Project (各生徒が日本文化の中から紹介するものを1つ選び英語で発表)
- ④ Guest Teachers Day (3月中旬に外国の方20数名を招き、③の内容を中心とした会話の実践練習の日を設定し、異文化交流を行う)

①～③のプロジェクトは、生徒が原稿を英文で書き、先生や ALT に添削してもらい、第2版を Word で作成、もう一度添削してもらい、最終版へと仕上げます。そして各自練習→暗記→JTE, ALT による発音指導を経て発表の日を迎えます。特に③の Japan Project は3か月の時間と労力をかけ、ほぼ全文を暗記してくる生徒もあり、④の本番でうまくいくと、ああ1年間がんばってきたよかったと思える瞬間となります。

④の Guest Teachers Day は、Japan Project のプレゼンテーションで会話が始まります。visual aid も使って日本と guest のそれぞれの国の行事を写真やパソコンの画面などを見ながら話すとどんどん会話も盛りあがります。あるグループでは guest の国の写真を見たり、現地の料理をご馳走になりながら会話を楽しんでいました。

1年を通じて *Departure* で基本表現を学び、総合的に学力をつけることを本校の OCI における英語学習の大きな柱としています。

Departure ではさまざまな場面での表現を学び、その音声面での演習(リスニング、ペアワーク)もできるため読む、書く、聞く、話すの4技能をバランスよく学ぶことができます。

(やまざき ひとし・札幌市立札幌清田高等学校教諭)

Genius English Readings Revisedパラグラフ・リーディングで入試対策
～速読力向上を目指して～

今井康人



皆さんの学校では教科書選定をどのように行っているだろうか。私は毎年、英語科準備室の机の上にすべての見本の教科書を置いて ALT 2 人と共に 3 人で 4 時間くらい読みふけることにしている。そして、いいと思ったテキストとそうでないものにどんどん振り分けていく。これはいいと感じるものだけが残っていく。不思議と ALT と私の意見は一致することが多い。特に重要な観点は

- ①英文のクオリティーが高く自然であること。
- ②コンテンツが豊かで文化的であること。
- ③生徒のどの能力が向上するか明確であること。
- ④写真などのレイアウトが適切であること。
- ⑤夢と希望のイメージにあふれていること。

の 5 点である。この観点から選んだ結果、今年度の本校の英語リーディングの教科書は *Genius English Readings Revised* (以下ジーニアスと記す) に決まった。このテキストがなぜ効果的なのか、全てを記述した場合膨大な量になるので、上記の③を中心にお話したい。

◆出会いのあるテキスト

このテキストには生徒がパラグラフ・リーディングの方法を理解できるような仕掛けが随所に存在している。その仕掛けが大げさに表記されているのではなく、読み進めることでじょじょに定着していくようになっている。

このテキストを読むとそこには出会いがある。その出会いがじつに多く、内容も深い。時として ALT は読みながら感心し、笑っていることも多かった。編集者の英知と経験を振り絞って作成された教科書であると私は感じた。なぜそう感じた

か。それはこの教科書の特色からも窺える。

1. 大学入試直結のトピック：過去の入試長文問題をリサーチし、コミュニケーション、生物、環境、平和などの頻出トピックを教材化。
2. 難関校の 2 次試験対策：難関校の長文問題は 800 語が目安だがジーニアスは、780 語～1100 語までの英文を揃えてある。各教材は『ジーニアス英和辞典』などの語彙頻度情報を活用し、易から難へと配列してある。
3. リーディング・ストラテジー対策：雑誌、ガイドブック、手紙など、それぞれの媒体に合った効果的な読みのコツが示されている。
4. 名作：村上春樹『ノルウェイの森』、オスカー・ワイルドの短編など、読む楽しみを味わえる教材を Supplementary Reading に採用している。
5. 語彙力増強：読解力の要となる語彙力を効果的に養成するための Vocabulary コーナーが充実。ボキャビルに役立つ「接頭辞一覧」「接尾辞一覧」も完備されている。ここの評価が高い。

以上が大まかな特色である。進学を希望する生徒にとって大学入試で成功することは悲願でもある。進学ばかりに意識がいつて受験競争を進めるような教育はよろしくないことは重々承知である。しかし、生徒にとって希望大学に合格しなければ入学は許されることはないことも事実であり、その試験内容は決して易しくはない。

本校はいわゆる進学校であるが、英語科の方針は受験の先にあるものを目指している。社会人になっても英語を学び続けることができるような下地を培う。そして、必要なときにいつでもやり直しがきくようにするべきであると考え。英語学

習に否定的になってしまったらその効果は半減してしまう。受験だけを目標にしてしまったら、受験終了後それは消滅してしまうのである。

センター試験や大学入試の長文に使われる語彙数は依然増加傾向を示している。興味深いデータを紹介したい。2008年実施のセンター試験問題を1問1分ペースで回答した場合のwpmはなんと182.4になる。2006年は143.6wpmであった。2007年で186.7wpmになり、この年を境に異常なハイペースでセンター試験に変化が起こったのである。この変化に対応している高校はまだ少ない。

平均的な高校生のwpmをご存じであろうか。本校が実施している学校作成の模試から考察すると約75wpmである。センター試験では倍の速読能力が必要とされていることになる。生徒はスキルとして速読の能力や技術を習得する必要がある。

ジーニアスは本文の読解を通じてパラグラフのいろいろな形態を学べるように構成されている。特に文章の構成に関して列挙、連続性、比較、因果関係などにスポットをあてており、読み進めるだけでこれらの習得ができるようになっている。

さらにスキミングや大意把握ができるようにActive Readingのコーナーが設定されている。パラグラフ・リーディングには簡単に習熟することはできない。時間と修練が必要だが、各レッスンに対応した練習問題が用意されている。特にパラグラフ・リーディングに特化したスペースを大幅に使っている。それがワークブック（スタンダード）に盛り込まれているのである。しかもそのページ数は約40ページもあるのだ。従来のワークブックの内容に加えてこのコーナーが設けられ、生徒が取り組めるようになっている。まさに自学自習教材にも成り得るほどの充実ぶりだ。

◆ALTが読んでもおもしろい内容

冒頭にも記載したが、私はALTとともに読んで教科書を採択している。ALTの視点からジーニアスをどのように捉えているのか記述したい。

The content is interesting and varied — not

just the main lessons, but also the supplementary content. There is no obvious strange English. All the English seems to be quite natural.

たとえば、Supplementary Readingのコーナーで紹介されている“All American Slurp”は中国からアメリカに移民した作家がユーモラスにつづる、異なる生活習慣のなかでの体験談で興味深い。

さらに印象に残った教材を挙げてみる。第9課にでてくる衝撃的な写真に注目したい。数百キロもあろうかと思われるゴリラが気を失った少年を抱えているのだ。この写真を見たとき自分の目を疑った。そして急いで英文を読んだ。

A three-year-old boy fell into a gorilla enclosure and was knocked unconscious. Within moments, Binti Jua, a female gorilla, approached, picked up the unconscious boy, and cradled him in her arms. Then she walked over and gently put the boy down in front of the caretaker's door.

いくつか意味の分からない単語があるかも知れないが、生徒たちは真剣に読むであろう。そして、ゴリラが意識を失った少年を大切に飼育員用のドアの前に置く姿をイメージするであろう。このような感動的な内容が重要である。人を大切にする精神を教えなければならないのだ。

圧巻はLesson 10である。見開き2ページを絵画（ボッティチェリの『春』）に割いている。こんな大胆な図版の使い方はなかなかない。素晴らしい絵画がこちらに迫ってくる。感受性豊かな生徒たちの感性を高めることができるのである。

もう1人のALTが絶賛した箇所がある。巻末付録に接頭辞と接尾辞の一覧が出ている。リーディングのテキストでここまで語彙にフォーカスしたものは少ない。

このテキストを真剣に学ぶ生徒たちから感動の波が押し寄せること必須である。何度も何度も音読し、暗写ができるまで習熟させる予定である。新学期が待ち遠しい日々を送っている自分は幸せなのである。（いまい やすひと・函館中部高等学校教諭）

Genius English Writing Revised

「教科書ノート」を活用して力を引き出す



福田浩子

◆勉強方法がわからない生徒たち

多くの生徒が英語に苦手意識を持っている学校では、その生徒達を英語に向き合わせ、力をつけさせるために、教員が日々悪戦苦闘している。私もその一人であるが、ここでは、*Genius Writing* を使った私の小さな試みを紹介したい。何かのヒントになればと思っている。

英語が不得意な生徒の口からは、「文法はわからないし、英語の勉強方法もわからない」という言葉をよく聞く。彼らの不安を取り除き、授業内容だけでなく、勉強の進め方も授業を通して会得させることが重要である。彼らに適した教科書は、基礎的な文法を復習しながら、その上に英語力を積み上げていくものである。少し頑張ればこなせそうな量で、しかも、力のついてきた生徒にも合うような発展的な内容も含まれているものがよいと考え、*Genius Writing* を選んだ。

◆達成感をあたえるノート作成法

彼らの自宅学習に必要な物は、適した教科書と授業の記録である。プリント教材という方法もあるが、私はノートを作らせている。

まず、*Genius Writing* の各課の導入部分である短い英語で書かれた文章をノートの左側のページに、数行空けながら、正確に写させる。そして、授業の最初で音読した後に、教員の説明を聞かせながら、ノートの重要な文に赤線を引かせ、メモを入れさせる。*Genius Writing* には、日本語で意味も載っているの、意味の説明にあまり

時間を割く必要がないのが教員にとっては便利である。ただ、生徒の中には、意味が載っていることで安心し、英語も飛ばしてしまう者もいる。英語に注目し、音と文字の両方で覚えるために、一度しっかりノートに書き写すのである。

それが終わったら、教科書を閉じ、ノートの右側に、自分で考えて（思い出して）、その英文の意味を日本語で書かせる。最後に、教科書を見ながら、自分の日本語が合っているかどうかを点検させる。

そうやってできたノートは、それだけで暗記用のテキストになる。自宅では日本語のページを開き、別の紙に英語を書いてみるという練習もできる。英文に赤線が引かれ、授業のメモも入っているので、復習する時にも便利である。

Study Points の例文も同じように、ノートに記録させる。Let's Check! も Exercises も全て、ノートに答えを書かせていく。その際も、英文を書かせながら様々な解説を加えていくので、必ず、数行空けながら、授業のメモを取らせるのである。教科書には何も書かせない。ノートに記録をつけていく習慣が無かった生徒にとっては初めての経験である。

そのノートを提出させ、点検・助言をすることを繰り返し行い、定着を図る。慣れてくると、ノートに様々な工夫を凝らしていく生徒も現れる。1年間に2冊以上のノートを使ったらと自慢気に話している生徒の顔を見ると、少しは達成感を持たせられたのではないかなと思う。

(ふくだ ひろこ・都立鷺宮高等学校教諭)

Genius English Writing Revised**ワークブック解答に詳細な解説が
加わりました！****塚本 睦子**

授業で習ったことを家庭学習に結びつけ、自学自習できる練習問題集が「ワークブック」である。語学の習得は授業に参加するだけでは難しい。教科書に準拠して作成されたワークブックを利用して学習したことを定着させ、さらに応用問題を解かせて、生徒達の理解度や運用力を強化したい。「書く力」の養成にはワークブックの活用が効果的である。

◆Genius Writing ワークブックの構成**Part 1 (基礎編)**

[A] は教科書のモデル文に出てくる重要表現を練習する。

[B][C][D] はその課で出てくる文法や表現を定着させることを目的としている。問題形式は語句の並べかえ、選択肢を選ぶ、空所に適語を入れる、語句を適切な形に書きかえる、誤文訂正、文を書きかえる、和文英訳などとバラエティーに富む。

[E] は自分のことなどを表現するための自由英作文の練習である。書き出しに続けて書く、手紙の返事を書く、表を見て指示に従って英文を書く、日本文化を紹介するなどがある。

Part 2 (コミュニケーション編)

[A][B][C][D] は Part 1 と同じであるが、[E] はその課で出てきた話題や表現、あるいは文法事項に関連した過去の大学入試問題である。

◆自学自習に必要な解説

Genius Writing ワークブックはこれまで解答だけだったが、「解答がそうなるのはなぜ？」と

いう生徒達の素朴な疑問に応えられるように、今回詳しい解説を解答に加えることになった。

〈例 1〉

Part 1 Lesson 13 [C] 各文の誤りを訂正し、全文を書きかえなさい。ただし、語数は変えないこと。

問題：(1) I was stolen my wallet in the train.

解答：I had my wallet stolen in the train.

解説：「私は電車の中で財布を盗まれた」have+O+過去分詞「Oを～される」。My wallet was stolen in the train. とすると語数が変わるので不可。in the train は on the train でもよい。

〈例 2〉

Part 2 Lesson 7 [B] 日本文の意味に合うように()の中の適切な語句に○をつけなさい。

問題：(5) ヒューイは、ジュリアンをうそつきと呼んだことを後悔した。Huey regretted (to have called / having called) Julian a liar.

解答：having called

解説：regret は to 不定詞と動名詞のどちらも目的語にできるが、意味が異なる。regret to ～「残念ながら～する」(現在・近未来のこと)、regret ～ing 「～したことを後悔する」(過去のこと)。この問題では過去にしたことを後悔した内容なので regret having called が正解。

上記2つの例に見るとおり、丁寧な解説で、生徒の自学自習を手助けしている。また Part 2 [E] 大学入試の過去問題には2種類の解答例および解説があり、受験問題集としても活用できる。

(つかもと むつこ・文教大学兼任講師)

大修館書店の指導資料・副教材のご案内

■教科書準拠指導資料・副教材

◎は生徒用副教材／定価＝本体価格＋税５％

教材名	判型	定価(税込)
■Genius English Course I・II Revised [英 I 046] [英 II 049]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／〈Q&A 方式〉教科書情報資料集／評価問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	15,750円
指導用パワーポイント CD-ROM		7,350円
指導用音声 CD (I・4 枚組／II・5 枚組)		I・12,600円 II・13,650円
◎予習ノート	B 5 判	500円
◎ワークブック Standard	B 5 判	500円
◎ワークブック Advanced ― 大学入試対策編 (CD 付)	B 5 判	980円
◎生徒用音声 CD (I・1 枚／II・2 枚)		I・1,050円 II・1,575円
■Captain English Course I・II Revised [英 I 047] [英 II 050]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／言語活動集／評価問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	14,700円
指導用音声 CD (3 枚組)		12,600円
◎学習ノート	B 5 判	500円
◎生徒用音声 CD		1,050円
◎単語・文法練習シート	B 5 判	—
■Departure Oral Communication I Revised Edition [オ I 026]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／言語活動集／評価問題集／Listening Challenge 補充問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	16,800円
指導用音声 CD (6 枚組)		14,700円
◎学習ノート	B 5 判	500円
◎生徒用音声 CD (1 枚)		1,050円
■Genius English Readings Revised [英R 031]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／評価問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	15,750円
指導用音声 CD (4 枚組)		12,600円
◎ワークブック Standard	B 5 判	500円
◎ワークブック Advanced	B 5 判	500円
◎生徒用音声 CD (2 枚組)		1,575円
■Genius English Writing Revised [英W 031]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／評価問題集／ディクテーションカード集／指導用 CD-ROM)	B 5 判	15,750円
指導用音声 CD (3 枚組)		12,600円
◎ワークブック	B 5 判	500円

* ご採用見本をご希望の場合は、大修館出版販売本社（電話：03-3934-5110[代]）までご請求ください。

■副教材（価格は税込み定価）

○Genius English Grammar（岡田伸夫編著・A5判・600円）

○Genius English Grammar Teacher's Manual（B5判・2,600円）

文法事項の定着をはかり、さらに大学入試レベルまでをカバーしています。指導用 Teacher's Manual では、補足例文、授業で使える小テスト用補充問題もご用意しました。

○カラーワイド英語百科—The English Odyssey—（大谷泰照・堀内克明監修・B5判・900円）

英米文化の常識から環境問題まで、英語を学ぶ際に知っておきたい背景知識です。手紙の書き方や語源など、「英語」にまつわる知識も満載。

○新版 ジーニアス英単語2200（B6判・1,050円）

多様化した最近の大学入試の分析を踏まえ、合格するために必要な単語を選定し、そのすべてに例文を付した最強の単語集。

○ジーニアス英単語 Step 38（B6判・1,050円）

大学入試と高等学校英語教科書での出現頻度から、名詞、動詞、形容詞・副詞の3つのカテゴリーを、それぞれ Step 1～Step 38 に分けて配列。動詞のみならず形容詞、副詞にも例文を付しています。発音・アクセント問題頻出単語はコラムとして収録。会話文対策も万全。

○ジーニアス英熟語1000 改訂版（新書判・1,050円）

試験で「どう出題されるのか？」にこだわり、中学～入試レベルの英熟語を収録しました。

■英語教科書サイト

GCD English Teachers' Room

- ・各教科書の「シラバス」「観点別評価規準例」（ダウンロード可能）
- ・教材リンク集
- ・大学入試問題（Departure OC I, Genius English Writing）
- ・学会・催し情報
- ・『GCD 英語通信』バックナンバー

（毎月15日頃更新）



URL : <http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

センター試験リスニングテストの分析と対策



小森清久

2009年度本試験では、選択肢の英語はやや短くなったが、状況把握がしばらく最後まで正確に聴かないと正解が導けない問題が増えたため、難化した。昨年度と比較すると以下ようになる。

	平均点(50点)	本文総ワード数	設問ワード数	平均速度
08	29.45	1086words	563words	159wpm*
09	24.03	1111words	545words	160wpm

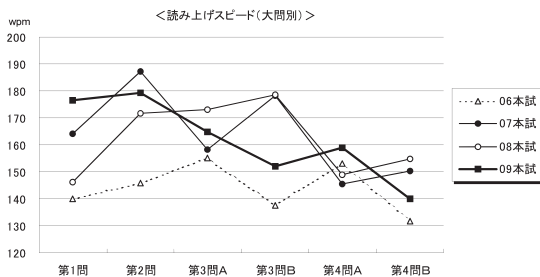


図 2006～2009年度の大問別読み上げ速度の推移

グラフからもわかるように大問ごとの読み上げ速度は一律ではない。内容の難易度に応じて読み上げ速度を加減しているように思える。09年度は第3問Bと第4問Bの内容が難しいが、読み上げ速度を遅くすることで、難易度を調整しているようにも思われる。*wpm: words per minute「毎分語数」

出題傾向をみると、日常生活や学生生活などをテーマとして扱った対話形式中心の出題が主である。問題がよく練られているため最後まで集中して聴かないと誤答を招きやすい。以下、差のついたと思われる問題を分析し、大問別に網羅した対策を考えてみた。

■第1問 対話文イラスト選択問題(平均176wpm)
問6 (163wpm／推定正答率約23%)

How much does the whole group have to pay?

① \$44 ② \$52 ③ \$55 ④ \$65

(スクリプト)

M: The sign says admission is five dollars each.

W: But since we're a group, we can save a dollar on each ticket.

M: We have eleven students and teachers are free.

W: Sounds good.

分析 「入場料の合計金額」がテーマ。数字の聴き取りと複雑な計算がポイント。男性の最初の発話 The sign says admission is five dollars each. とそれに対する女性の発話 But since we're a group, we can save a dollar on each ticket. から、入場料は1人4ドルになることがわかる。さらに、男性の2回目の発話にある We have eleven students... を注意して聴き取り、入場料の合計金額は4ドル×11人＝44ドルとなる。その際、... and teachers are free. の発話で全体の人数を混乱させないように注意する。③の誤答が全体の約62%になったのは、女性の最初の発話にある... save a dollar on each ticket の聴き取りが正確にできなかったことによると推測。(答①)

対策 聴き取りの前に質問文とイラスト・数字・文字などに目を通して置き、聴き取りのポイントを予測する。数字などの聴き取りは、メモを取った後で計算するなど工夫をすることで対処できる。

■第2問 対話文応答完成問題 (平均179wpm)

問8 (159wpm／推定正答率約33%)

① I see. I hope she'll be here soon.

② I see. I remember her, too.

③ OK. She must have forgotten.

④ OK. We should go ahead then.

(スクリプト)

M: Is everybody here now?

W: We're still missing Margaret.

M: Oh, now I remember. She said she can't make it.

分析 「待ち合わせ」がテーマ。平叙文を用いた最後の発話に対する自然な応答を選ぶのがポイント。男性の最後の発話にある She said she can't make it. に対して適切な発話を考える。なお、can't make it「都合がつかない」は正確に聴き取ったが、その意味を理解できず、①を選んだ誤答が全体の約41%になったと推測。(答④)

対策 文法・構文的なつながりより、内容的なつながりに重点を置くため、柔軟な応答力が求められる。特に、最後の発話内容に集中し、事前に質問文と選択肢に目を通して置き、聴き取りのポイントを予測しておくことが高得点につながる。会話特有の定型表現にも慣れておく必要がある。

■第3問 A 対話文質問完成問題 (平均164wpm)
問14 (181wpm/推定正答率約44%)

According to the woman, what would people have to do if they had four fish?

① Pay double. ② Pay for four pets.

③ Pay for one pet. ④ Pay nothing.

(スクリプト)

W: Have you heard about the new law? When you rent an apartment and have a pet, it'll cost 50 dollars extra a month.

M: So, with a cat and a dog you'd pay double?

W: Right.

M: What about four fish in a bowl? Would you have to pay 200 dollars?

W: Well, a pet is a pet.

分析 「ペットに関する賃貸規約」がテーマ。事前に質問文と選択肢に目を通して、対話内容を推測する。質問に According to the woman, ... if

they had four fish? とあるので、女性の発話とペットの数と支払い金額に注意を払いながら聴き取る。女性の最初の発話にある When you rent an apartment and have a pet, it'll cost 50 dollars extra a month. を正確に聴き取り、男性の発話 What about four fish in a bowl? Would you have to pay 200 dollars? に対して、女性が最後の発話で Well, a pet is a pet. と応答していることを聴き取り、発話内容を理解する。(答②)

対策 事前に質問文と選択肢に目を通して置き、聴き取りのポイントを絞っておく。

■第3問 B 会話文図表完成問題 (152wpm)

分析と対策 (推定正答率59%) 150語程度の対話を聴く。「赤ん坊の名前の人気ランキング」がテーマ。空所に入れる名前が直接読み上げられないので、必要な情報を収集して推測する必要がある。年代と名前と順位に注意して聴き取る。場面が時系列通りに展開していないので注意。

■第4問 A 短文内容把握問題 (159wpm)

分析と対策 (推定正答率63%) 90~100語程度のモノローグの英文を聴き、質問に対する答えを選択する問題。日常生活に関連したテーマが多いので、状況は比較的理解しやすいが、情報を整理して聴かないと誤答を招きやすい。事前に質問文と選択肢に目を通し、場面の状況を推測しておく。細部の聴き取りにとらわれ過ぎ、全体が理解できないことにならないように注意。

■第4問 B 長文内容把握問題 (140wpm)

分析と対策 (推定正答率42%) 200語程度のモノローグの英文を聴き、質問に対する答えを選択する問題。「オンライン雑誌」がテーマ。聴き取りの英文は演説調で、語彙レベルはやや高い。内容面では「オンライン雑誌」に関する糸口が聴き取れば、比較的問題に答え易い。事前に質問と選択肢に目を通し、内容を推測し、的を絞った聴き取りをする。その際、該当箇所を書き取るなどすると効果的な対策となる。

(こもり きよひさ・河合塾開発研究英語科講師)

英語教育を知る58の鍵

松村昌紀 著

A5判 256pp.
本体1,800円+税

白畑知彦



英語教育を実践する教師の必読書

非常にバランス良い書物である。英語教育学に関わる先行研究に関し、他の書物から無防備に孫引きするのではなく、幅広い領域から拾い集め、自分自身で丹念に読み、その内容を咀嚼し、初学者に分かりやすく解説している。書かれている内容は、ある一方向の主張に偏ることなく、客観的姿勢を貫き、きわめて健全である。また、議論の中身は、一見平易な日本語で書かれてはいるが、洞察力に富み、深遠である。著者が真の研究者であることがよく分かる。

本書は英語教育に関連する58項目のトピック（これが、英語教育の扉を開くための「鍵」となる）をピックアップし、それぞれの項目について3～4ページの読みきりの形で、論じている。本文では簡潔に内容を説明することに徹しており、もう少し詳しい説明や解説を知りたい読者のために、各章の末に付けられた「注」の中で関連文献を紹介する形を取っている。

本書は7章構成である。以下、紙幅の許す範囲で中身を紹介したい。まず、「第1章 日本の社会と英語・英語教育」では、日本という社会で、外国語として教室で英語を学習するとはどういう状態であるのかを詳しく説いている。第1章では、「日本人が英語の勉強に費やしている時間は決して多くないことを理解する」「学校英語教育にとっての適切な目標とは何かもう一度考えてみる」「日本の英語教育の歴史に由来する特殊性を知っておく」の3項目が、評者が特にじっくりと読むことを薦めたい項目である。

「第2章 英語教育の争点：文法の指導・子どもに対する英語教育」では、日本の英語教育の中心的位置を占めてきた「文法指導」について、著者の意見が説得的に

書かれている。続いて、言語習得の臨界期仮説について、そして、児童英語教育や小学校英語教育、イマージョン・プログラムなど、学童年齢における外国語教育に関し、教師が知っておくべきことが丹念に述べられている。

「第3章 英語教育のための基礎知識：言語観・言語習得観の変遷と第二言語教育へのアプローチ」では、なぜ今日の教授法が提案されるに至ったのか、オーラル・アプローチ全盛時代の1950年代から現在に至るまでの約60年間の、英語教育に対する社会的要求や言語習得観の変遷に触れながら説明している。

「第4章 タスクを中心とした第二言語教育」「第5章 4技能の効果的な養成」の2章は、教育実践に関心をお持ちの読者にはじっくりと読んでいただきたい章である。4章で取り上げている「task（タスク）」とは、そのままカタカナで表記されるのが一般的となっているが、大雑把に言えば、「授業中に行う様々な言語活動のこと」である。英語を使用して他者とコミュニケーションできる能力を身につけることを目標とする現代の英語教育では、真のコミュニケーション能力に結びつくタスクが大変重要になってきている。では、どのようなタスクを実践すれば良いのか、4章に解説されている。5章では4技能の具体的な指導方法の提案と共に、4技能を学習するとはそもそもどういうことなのか、著者の意見が説得的に語られている。ただ単に、「英語の教え方」が書いてあるのではなく、その裏にあるメカニズムも説明されており、深い知識を得ることが出来る。続く「第6章 英語のテストと評価」はテストとは何か、そしてテストに対してどのような心構えをすべきかについて著者の意見が述べられている。

最終章の「第7章 これから先生になる人へ」は文字通り、近い将来、教職に就こうとしている若い世代の大学生、大学院生たちへの著者からのメッセージである。英語を教えるだけでなく、「先生」とはどのような存在であるべきか、熱く語られている。

ある書物を読むということは、その著者と（一方通行ではあるものの）会話することである。今回、松村氏と書物を通してじっくりと会話ができたことは、評者にとってとても大きな財産となった。

（しらはた ともしこ・静岡大学教授）

[大修館] 英語授業ハンドブック 〈中学校編〉 DVD 付

金谷 憲 編集代表 青野 保/太田 洋/
馬場哲生/柳瀬陽介 編集

A5判 384pp. DVD 1枚付
本体3,600円+税

萬谷隆一



「見ながら読む」指導技術解説書

英語教育にかかわる最近の世間の関心は、かなり小学校英語に向けられている。おそらく中学・高校の教師の中には、一種の違和感を抱く方もおられるのではないかと拝察する。「やはり英語教育の本流は中学校や高校にある」と信ずる方も多いと思われる。本書の背景には、中学や高校の英語教育から世間の関心が離れたがちな時期にあって、英語教育の本流たる中学・高校の英語教育にこそ知恵と活力を与えたいという並々ならぬ使命感を感じる。そして、実際に、本書はそうした英語教育の活性化剤としての役割を果たすことができる革新的な書物であると思われる。

これまでの英語指導ハンドブックの類書と異なり、本書の革新的特長は、DVD が付属しているという点である。従来の指導書の多くは、指導技術を「ことば」で説明することが一般的であるが、指導技術の実際をことばでの説明からイメージすることは容易ではない。しかし本書は、項目によって当該指導技術を使った実際の DVD 映像が見られるため、まことに理解が容易である。こうした映像による例示は、とりわけ初心の中学校教師や教師を目指す学生には大きな福音となるであろう。初心者ほど、まだ指導経験が浅く、「ことば」による説明を読むだけでは実際の指導をイメージすることが難しいからである。百聞（百説？）は一見に如かず、とはよく言ったもので、この DVD を見ながら読む本書の分かりやすさは特筆に値する。従来の指導書と異なり、本書で解説されている指導技術は、映像のおかげで、血の通った教師と生徒のやりとりとして鮮やかに脳裏に残り、明日の授業に役立てられる気持ちにさせられるであろう。

ちなみに、本書の全ての項目に DVD 映像が付いていることに不満を持つ読者もいるかもしれないが、映像資料があった方が良い項目が優先されて選ばれている。それら指導項目には、シャドーイング、インフォメーションギャップ、スキットなど、誰でも使えて、効果がある指導技術が選ばれている。また、ディクト・コンボ、ディクト・グロス、レスポンス・レシテーションなど、一般にイメージしにくい技術なども映像化され、一見してその方法が分かるようになっている。なお DVD に収録された指導技術は、細切れのテクニックの紹介ではなく、一連の授業の流れとして提示されている点も大変好感が持てる。なぜならば、指導技術の有効性は一連の技術の組み合わせの中で高まるものであり、また個々の指導技術の役割も流れの中でこそ明確に意識できるからである。

さて、このようなメディア的な革新性もさることながら、本書は中学校英語指導書としての基本性能もとても高い。たとえば、リーディングに関する節（第2章）などは、編者がタスクによるリーディング授業（和訳先渡し）を推し進めてきたことを反映してか、豊富なタスクが紹介されており、読みの授業の幅を広げてくれるであろう。

また入門期の指導（第1章）の解説も大変参考になる。小学校英語を経験してきた生徒たちをいかに中学での英語学習に導くかについて具体的示唆が有益である。第7章「クラスルーム・マネージメント」や第8章「自律的学習者に育てるための工夫」とも関連するが、本書は指導技術面だけでなく、生徒の学習態度面での指導についての項目も充実している。その他、第5章の「評価」も、パフォーマンステスト、自己評価など興味深い実例が示されており、最近の中学校英語科の評価の広がりを知ることができる。

本書は、基本的な技術だけでなく、少し上級のアイデアまで網羅しており、初心者でも玄人でも得るものがある項目立てになっている。執筆者が、第一線で活躍する英語教師たちであることもあってか、日常の指導に役立つコツがちりばめられている。英語教育の本流を担おうとする志ある英語教師の必携書として強く勧めたい。

（よろずや りゅういち・北海道教育大学教授）

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆英語教育に必要なキーワード930語を厳選、改訂版登場！

改訂版 英語教育用語辞典

白畑知彦・富田祐一・村野井 仁・若林茂則＝著
(四六判・384頁・定価2,625円)

◆the man responsible と the responsible man の違いは？

日英対照 形容詞・副詞の意味と構文

影山太郎＝編
(A5判・400頁・定価2,730円)

◆多種多様な例文からヒトの言語能力のしくみを探る

認知構文論

山梨正明＝著
(A5判・322頁・定価2,940円)

◆新語・専門語が充実した、本格的大辞典誕生

スタンダード時事仏和大辞典

稲生 永・彌永康夫＝編
(A5変型判・2158頁・定価30,450円)

◆58本のテレビドラマから日韓の敬語を比較して学べる

韓国語の敬語入門

韓美卿・梅田博之＝著
(A5判・248頁・定価1,995円) (定価＝本体価格＋税5%)



お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「GCD教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページ「燕館」には別館「GCD English Teachers' Room」を設け、小社教科書の内容をご案内しているほか、英語の先生方に役立つ様々な情報を提供しております。ぜひご活用ください。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

◆営業便り◆

▶新学期を迎え、先生方におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。今年も数多くの高等学校より弊社発行の学習辞典をご推薦いただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りいたしまして改めて御礼申し上げます。

▶「授業中に電子辞書を使用している生徒の割合が年々増えている」との先生方の声を最近よく耳にします。もちろん電子辞書やweb辞書には利便性や効率性など、それぞれの持ち味があるとは思いますが、小社も加盟している辞典協会では「まず紙の辞書を！」キャンペーンを実施しています。

▶そのキャンペーンで、東京大学の柴田元幸教授は「情報収集には電子媒体、学習には紙媒体」との論を展開されています。高校入学時には両者を上手に使い分けるよう指導いただければ幸いです。

▶まもなく平成22年度用教科書見本ができあがります。小社営業マンも説明にお伺いいたします。ご多忙中とは存じますがよろしくお願い申し上げます。

◆編集後記◆

▶今回のWBCはずいぶん盛り上がりしました。最終的には日本の2連覇で幕を閉じたのですが、イチローの不振、村田の離脱、韓国戦連敗など、苦しい戦いが続いた印象です。▶イチローがRound 2に入ってから9打席ヒットが出ず苦しんでいる時、負けたら敗退というキューバ戦を前にして、チームメイトがストッキングを引き上げて長めにはくイチロースタイルをとりだしました。若手から始まり、最年長の稲葉までチームの皆が「心は1つ」という無言のメッセージをエールとして贈ったそうです。イチローはその時、「ん、今日は何か違うな？」と感じただけだったようですが、そのキューバ戦の4打席目で13打席ぶりのヒットが出ました。▶イチローが皆の心意気を知ったのは優勝後だったとのこと。どれだけの有形・無形のドラマが繰り広げられていたことかと、想いは際限なく広がります。▶今号の特集のキーワードは「活用」。万一、先生方が指導の際悩まれるようなことがあった場合、教科書をはじめ指導資料・副教材をご活用いただけるよう編集部一同ストッキングを引き上げて待機しております。(熊)

Genius・Captain・Departure

英語通信

第45号

2009年4月25日発行

(年2回発行)

[出版情報] <http://www.taishukan.co.jp>

編集人 ©「G.C.D. 英語通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社 大修館書店

101-8466 東京都千代田区神田錦町 3-24

Tel. (03)3294-2357(編集部) / (03)3295-6231(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 文唱堂印刷株式会社